

苫小牧市立清水小学校学校便り

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

Eメール simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp
第 12 号 平成 30 年 3 月 23 日発行

太陽に向かって成長する「清水の子」

校長 一谷 浩之

今年も我が学舎清水小学校から卒業生が巣立っていきました。清水町、春日町、木場町、緑町を校区とするこの地区は、歴史と伝統のある町内会に支えられ地域と共に歩む教育が繰り広げられてきました。

私は平成 15 年から 5 年間、一般教諭としてこの学校で教壇に立った経験があります。元気で個性的な子ども達。教師を側面から盛り立ててくれる保護者の皆様、教育活動に心底協力的な地域の皆様に支えられて、教師として子ども達と関われる喜びを満喫した 5 年間でした。当時の校長先生の薦めもあり平成 20 年より管理職となり清水小学校を巣立っていくことになりましたが、教頭となり務めたむかわ町、白老町では、清水小で学んだという誇りを胸に、職員にも清水で学んだことを啓蒙してきたつもりです。校長として赴任した室蘭市では教職員の資質向上こそが児童の生きる力に直結することを訴え、教師自身の自己研鑽に励むよう指導しました。実は指導する時のお手本は、当時の清水小学校で影響を受けた先生達だったのです。担任時代、いつも陰ながら支えてくれた青木都先生。教員同士の助け合いがどれほど大切なのか身をもって教えてくれました。明るさを忘れず絶えず子ども達に笑顔で接する河毛留美先生。どんな辛い状況でも楽しむ事を教えてくれました。若さと信念と情熱を持った東峰秀樹先生。真摯に子どもに向き合うこと、真摯に自己の向上に向き合うこと、真摯に職員室の仲間に向き合うことを体現してくれました。

平成 27 年、縁あって清水小学校に帰ってくることになりました。当時、同僚だった今雅子先生が「お帰りなさい」と笑顔で出迎えてくれ、当時の保護者の方も地域町内会や民生委員、評議員として懐かしく出迎えて戴いたことは何よりの励みとなった 3 年前でした。

この 3 年間、校長として清水小学校の舵取りを行ってきましたがいかがでしたでしょうか。校長室に掲げられている歴代校長の写真に叱咤激励されながら、校長としての力の無さを痛感した 3 年間でした。子ども達のために一生懸命働く教職員に助けられながら、保護者、地域の皆さんの協力のお陰で何とか務めることができました。職員、保護者の皆さん、地域の皆さん。本当にありがとうございました。

実は一番私を支えてくれたのは子ども達です。毎日の元気な挨拶。時にもがき苦しみながら成長したいというエネルギーを発散する姿。「それでいいんだよ。」何があっても太陽に向かって成長するのが清水の子なんだから。私も清水の子の精神を受け継ぎ次の学校に赴任致します。